



(京都西南部)

今里遺跡は、阪急長岡天神駅の北北西約一・五kmにある乙訓寺を中心広がる遺跡で、また長岡京の範囲にも含まれている。過去数回にわたる調査で、長岡京の遺構の他、弥生時代から鎌倉・室町時代にかけての各種の遺構・遺物を発見している。今回の調査は、長岡京の都市計画街路建設にともなう長岡京跡右京第一〇五次調査として実施したもので、調査地は、長岡

京都・今里遺跡

いまざと

- 1 所在地 京都府長岡京市今里
- 2 調査期間 一九八二年(昭五七)七月～一九八三年一月
- 3 発掘機関 勅京都府埋蔵文化財調査研究センター
- 4 調査担当者 山口 博
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 弥生時代～室町時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

今里遺跡は、阪急長岡天神駅の北北西約一・五kmにある乙訓寺を中心広がる遺跡で、また長岡京の範囲にも含まれている。過去数回にわたる調査で、長岡京の遺構の他、弥生時代から鎌倉・室町時代にかけての各種の遺構・遺物を発見している。今回の調査は、長岡京の都市計画街路建設にともなう長岡京跡右京第一〇五次調査として実施したもので、調査地は、長岡

京市今里西ノ口及び今里舞塚の両地である。今回の調査では、奈良時代の溝や長岡京期の掘立柱建物跡、条坊側溝、鎌倉～室町時代にかけての掘立柱建物跡、柵、井戸、溝、そして古墳(今里舞塚古墳・同二号墳)の周濠等を検出した。

木簡は、今里西ノ口の調査地で検出した鎌倉時代の石積み井戸から出土したもので、その周辺からは、鎌倉～室町時代の各種遺構を検出している。石積み部分の内径は、約〇・八mを測り、一辺約二・二mの方形の掘形を有する。深さは、約五・四mを測り、石積み部分は、約四・三m現存する。井戸内からは、瓦器の椀・皿、土師器の皿、下駄、曲物の底板等が出土している。瓦器椀等から見ても、一三世紀後半に位置づけられる。

8 木簡の釈文・内容

- (1) 「咄呷唳固」 [物カ] (350) × 45 × 7 019

笏状を呈し下端部は欠失する。「咄呷唳」の呪字があることから、この井戸の使用に疫病が移るのを防ぐ祭祀に用いたであろう。

(山口 博)

